

2015/2/25 排出クレジットに関する会計・税務論点調査研究委員会(第2回)

＜東京都総量削減義務と排出量取引制度＞ 東京都キャップ・アンド・トレード制度の現状



東京都環境局

目次

1. 制度の概要
2. 削減の実績
3. クレジット発行・取引の実績
4. 東京都制度への高い関心

An aerial photograph of a city, likely Tokyo, showing a dense urban landscape with numerous skyscrapers and a large green park area in the foreground. The text '1. 制度の概要' is overlaid on the image in a large, bold, black font.

1. 制度の概要

総量削減義務と排出量取引制度の概要

■ 業務部門を対象にした世界で初めての都市型キャップ・アンド・トレード制度

■ 都内大規模事業所に対し、CO₂排出量の総量削減を義務付けるとともに、排出量取引により他の事業所の削減量等を取得して、義務履行が可能な制度

対象範囲	前年度の燃料、熱、電気の使用量が、原油換算で1500 kℓ以上の約1400事業所 ・オフィスビル等の業務部門：約8割 ・工場等の産業部門：約2割	事業所単位
総量削減義務の対象者	対象となる事業所の所有者。ただし、届出があれば、所有者に代わって、又は所有者と共同で義務者となることができる。 * 一定規模以上のテナント事業者も義務者となることも可能	
削減計画期間	5年間 第一計画期間:2010～2014年度 第二計画期間:2015～2019年度 排出量の把握と報告書の提出：毎年	
削減義務対象ガス	燃料、熱、電気の使用に伴い排出されるCO ₂	

削減義務率

【第一計画期間】

● 「大幅削減に向けた転換始動期」として位置付け、削減義務率を設定

区 分		削減義務率
I -1	オフィスビル等※1と地域冷暖房施設 (「区分 I -2」に該当するものを除く。)	8%
I -2	オフィスビル等※1のうち、 地域冷暖房等を多く利用している※2事業所	6%
II	区分 I -1、区分 I -2以外の事業所(工場等※3)	6%

※1 オフィスビル、官公庁庁舎、商業施設、宿泊施設、教育施設、医療施設等

※2 事業所の全エネルギー使用量に占める地域冷暖房等から供給されるエネルギーの割合が20%以上

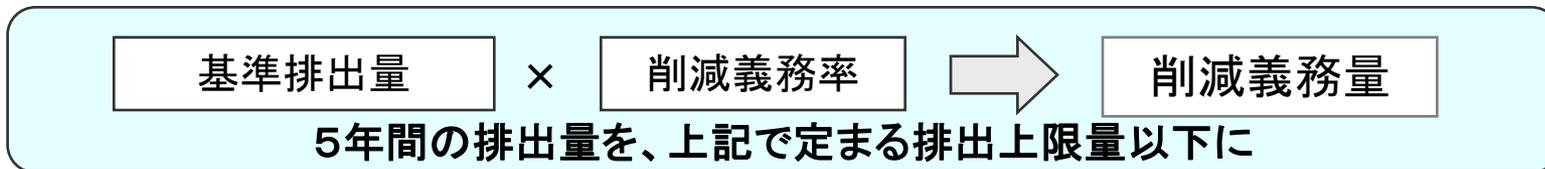
※3 工場、上下水施設、廃棄物処理施設等

【第二計画期間】

◆ 「より大幅なCO2削減を定着・展開する期間」
として削減義務率を強化

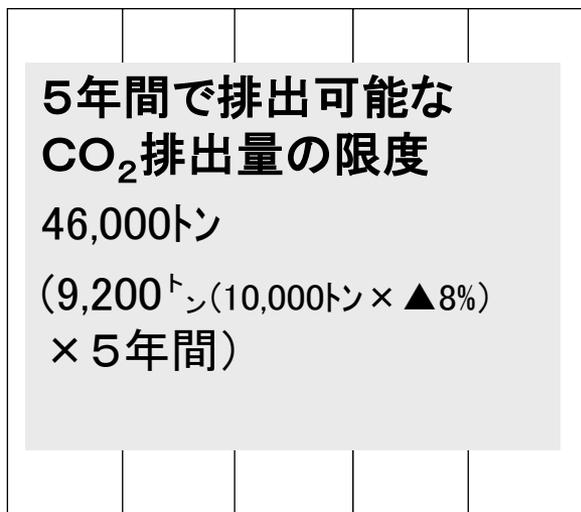
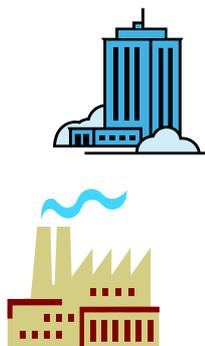
区 分	削減義務率
I -1	17%
I -2	15%
II	15%

総量削減義務の内容



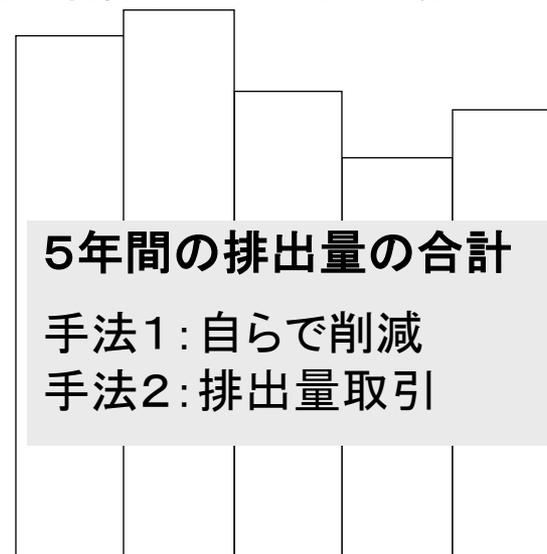
- 基準排出量**：2002年度から2007年度までの間のいずれか連続する3か年度の平均値
 （どの3か年度とするかは、事業者が選択可能。ただし、その年度の排出量について、登録検証機関の検証が必要）

—「基準排出量」：10,000トン、第1計画期間の削減義務率：▲8%削減の場合—



2010 '11 '12 '13 '14 年度
(削減計画期間：5年間)

Ⅳ
削減義務履行



2010 '11 '12 '13 '14 年度

総量削減義務の履行手段

1 自らの事業所で削減

高効率なエネルギー消費設備・機器への更新や運用対策の推進 など

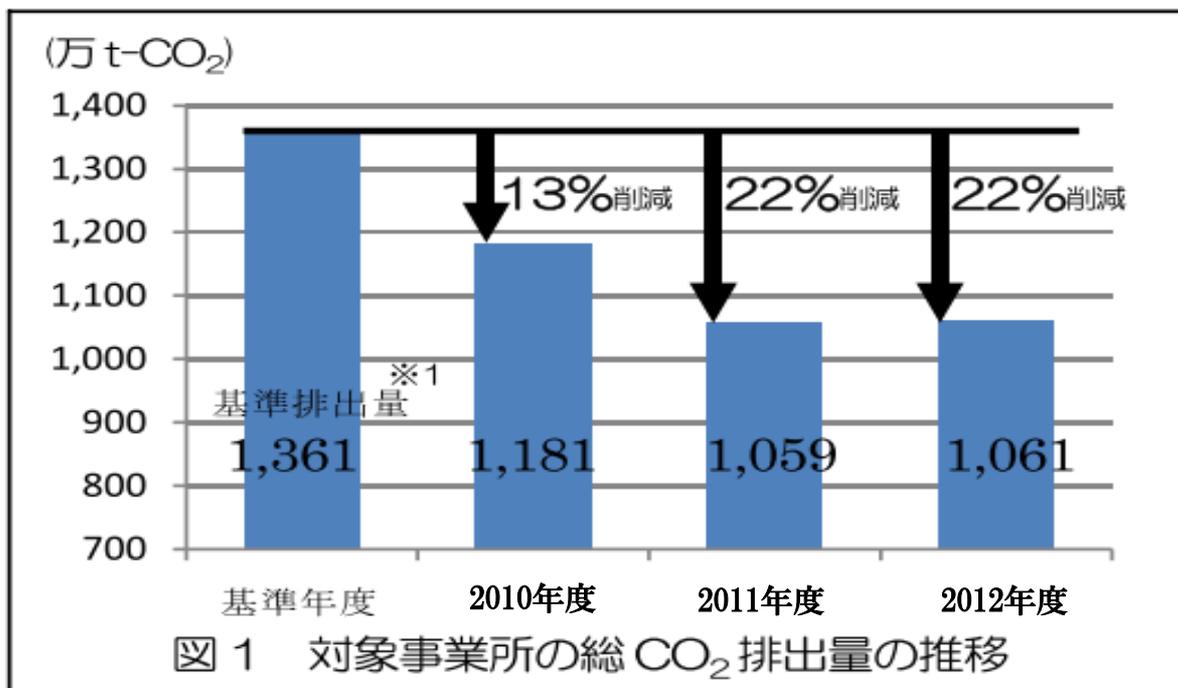
2 排出量取引 都基準によりクレジット化した削減量を取引で取得

- ①超過削減量：対象事業所が義務量を超えて削減した量
- ②中小クレジット：都内中小規模事業所において認定基準に基づく対策による削減量
- ③再エネクレジット：再生可能エネルギー環境価値（①その他削減量：グリーンエネルギー証書又はRPS法における新エネルギー相当量などの既存制度による環境価値 ②環境価値換算量：都が認定する設備により創出された環境価値）
- ④都外クレジット：都外の大規模事業所の省エネ対策による削減量（削減義務量相当を超えた量に限る）
- ⑤埼玉連携クレジット：埼玉県目標設定型排出量取引制度で認定される超過削減量、中小クレジット

An aerial photograph of a city, likely Tokyo, showing a dense urban landscape with numerous skyscrapers and residential buildings. A large, lush green park is visible in the lower half of the image, providing a stark contrast to the surrounding concrete and steel. The sky is clear and bright, suggesting a sunny day. A semi-transparent white rectangular box is overlaid on the center of the image, containing the title text.

2. 削減の実績

制度開始3年目(2012年度)の削減実績



2014年1月末時点で審査の完了した98%の事業所の値を基に集計

※1

基準排出量とは:

事業所が選択した2002年度から2007年度までの間のいずれか連続する3か年度排出量の平均値

震災直後の2011年度に引き続き、2012年度も前年と同じ22%もの大幅削減が継続。

An aerial photograph of a city, likely Tokyo, showing a dense urban landscape with numerous skyscrapers and residential buildings. A large, lush green park is visible in the lower-left quadrant, providing a stark contrast to the surrounding concrete and steel. The sky is clear and bright, suggesting a sunny day. A semi-transparent white rectangular box is overlaid in the center of the image, containing the main title text.

3. クレジット発行・取引の実績

オフセットクレジットの事前申請状況

都内中小クレジット、再エネクレジット（環境価値換算量）、都外クレジットの3つの合計で、**約26万t-CO₂**の創出が見込まれる。

※一部は、第2計画期間になってからクレジット化される。

＜オフセットクレジットの事前申請状況＞（2014.12.31 時点）

都内中小クレジット	104,229t-CO₂ ※5年間合計 (516件)	
再エネクレジット (環境価値換算量)	太陽光	3,242kW (7件)
	特定バイオマス	0kW (0件)
	水力 _(1,000kW以下)	90kW (1件)
	水力 _(1,000kW超10,000kW以下)	13,300kW (2件)
	計54,000t-CO₂ ※5年間合計、都独自推計	
都外クレジット	98,859t-CO₂ ※5年間合計 (9件)	

(参考) その他ガス削減量：**519,648t-CO₂**(17件)

※実際の発行量は排出（発電）実績等により変動する。

クレジットの発行状況

(2014.12.31 時点)

年度	超過削減量		都内中小クレジット		再エネクレジット (環境価値換算量)		再エネクレジット (その他削減量)		合計
	件	t-CO ₂	件	t-CO ₂	件	t-CO ₂	件	t-CO ₂	t-CO ₂
23	0	0	3	117	1	7,285	22	39,244	46,646
24	19	15,700	14	1,094	1	7,423	16	23,777	47,994
25	72	141,417	269	14,255	2	8,209	22	132,490	296,371
26*	64	471,196	85	4,382	2	8,636	10	12,115	496,329
計	155	628,313	371	19,848	6	31,553	70	207,626	887,340

※26年度は、4月から12月末まで（9ヶ月間）の状況

クレジットの取引状況

(2014.12.31 時点)

一般管理口座 間の移転		
年度	件	t-CO ₂
23	4	20,576
24	6	19,659
25	17	32,072
26*	16	14,383
計	43	86,690

※26年度は、4月から12月末まで（9ヶ月間）の状況

An aerial photograph of Tokyo, Japan, showing a dense urban landscape with numerous skyscrapers and residential buildings. A large, semi-transparent white rectangular box is overlaid in the center of the image, containing the title text. The background shows a mix of modern high-rise buildings and older, lower-rise structures, with a large green park area visible in the lower-middle section.

4. 東京都制度への高い関心

東京都キャップ・アンド・トレード制度への高い 関心 ~ 海外 ~

2013年9月 「C40・シーメンス大都市気候リーダーシップ賞」

・気候変動対策で優れた取組を行う自治体を表彰
→キャップ&トレード制度開始2年目でCO2
排出量を23%削減したことを評価



2014年6月 国連気候変動枠組条約技術専門家会議

・先進的に気候変動対策に取り組む都市の取組を
世界各国と共有する会議に東京が招聘され参加
→東京都のキャップ&トレード制度への高い評価

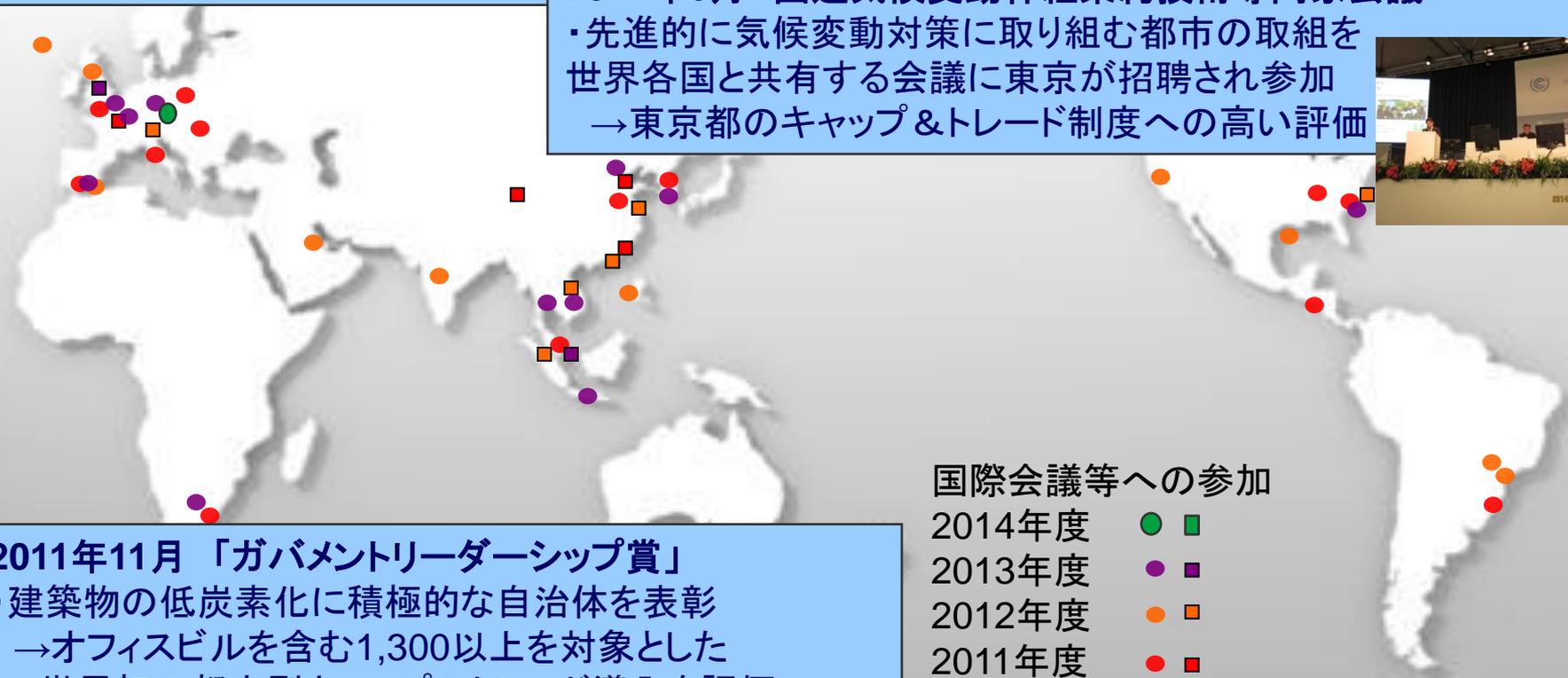


2011年11月 「ガバメントリーダーシップ賞」

・建築物の低炭素化に積極的な自治体を表彰
→オフィスビルを含む1,300以上を対象とした
世界初の都市型キャップ&トレード導入を評価

国際会議等への参加

- 2014年度 ● ■
- 2013年度 ● ■
- 2012年度 ● ■
- 2011年度 ● ■



低炭素・高度防災都市の実現を目指して

